

2010年6月6日

402名がともに鑑賞・感動

わずかですが黒字でした

「いのちの山河 日本の青空」上映会 in 下諏訪の様子



毛利の主催者挨拶はこちら

<http://www.lcv.ne.jp/~mourima/10.6.6aisatu.pdf>

アンケートによる感想

誰もが平等な生活をするを、実現することはとても難しいことなのですが、実現していかなければいけないと思います。国全体が深澤村長のような信念を持ち、誰もが住みよい日本になればと思いました。女性 1986年生

一人では出来ないことも、人間一人ひとりが力を合わせることで政治を動かせるとかんじました。女性 1964年生

いのちを守るために、命を賭けようという言葉、すばらしい言葉でした。村民が力を合わせることを訴えた深澤さんに感動しました。女性 1981年生

貧困・豪雪・乳児死亡を村民の団結で解決していく状況が感動的でした。組織作り＝皆が自分のこととして闘っていくまでのプロセスに教えられました。女性

良い映画でした。「あなたが産まれたとき、あなたは泣いていて、周りの人は笑っていたでしょう。あなたが最後死ぬときは、あなたは笑っていて、周りの人は泣いている、そんな風に生きなさい、という言葉思い出しました。村のために一生を賭けて頑張った村長は、最後笑っていたらいいと思います。男性 1985年生

命の大切さ、憲法について学ぶすばらしい内容だと思います。今の世の中に、こういう映画ができることの意味、良いだけではないことを感じます。

村長が、自身の人生のなかで一貫して憲法の精神を基に考えを進めたことに感動し、自分も、今後のいろいろな問題を考える基本としたいと思いました。

いつもの自分の活動をもう一度奮い立たせるものでした。
貧しい無医村でもここまでのことが出来るのかと、見ていて勇気づけられました。憲法9条・25条を絶えず守っていきたいと思います。

人間の尊厳について深く考えさせられました。年間、自殺者3万人というのは異常です。男性 1963年生

この映画を小学生に見せたり、この深澤氏の生き様を中学の教科書に載せるなど、広く伝えていけたらいいですね。女性 1958年生

誰もが安心して暮らせる社会の大切さをあらためて認識しました。

自分のことばかり、目の前の損得ばかり計算する大人・子どもばかりのような(自分も含めて)胸がくさくさしている毎日でしたが、自分が生まれた頃、こんな人たちがいたことに感激しました。

先日28才の男性が、自分が勤めている病院に「お金がないが、診てもらえるか」と電話してきた方がいました。何とか、ソーシャルワーカーに連絡を取ってみましたが、いざ、(約束した)時間になっても電話が来ませんでした。初めに電話してくれたのが精一杯だったのかも知れません。何とか、医療に結びつけて行きたいと思っています。女性 1951年生

医療・貧困・生存権と憲法が強く結びついているのが実感できました。今、生活の質が低くなっているのが問題です。男性 1944年生

日本国憲法の真髄をみた思いです。9条と25条は一体のもの。映画のラストで、この映画を支えた団体名が出ていましたが、心が熱くなりました。

いい映画で感動しました。今も年をとって病気にかかれぬ人が多いみたいですが、今のこどもたちが年をとったらどうなるかなと、心配です。

周りのみんなに見せたい内容でした。

訴えたいこと 病気なのになかなか自分が納得いく医療が受けられず、痛みに耐える毎日です。女性 1941年生

夢で終わらせるのではなく、実現したところがあったことを見て、無理だと思ってしまう自分が変わらなければと思いました。 1949年生

など全47通